

	項目	意見の概要	対応の方向性	原案該当ページ
1	計画におけるボランティアの位置づけ (オリ・パラレガシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市ボランティアの運営を行ったために、行動計画においてボランティアに関する取組が目立ち、ボランティア推進計画のような印象を受ける。 ・具体的な事例として、市民活動団体等の活動を書き込むことにより、県民活動の全体像が分かりやすくなるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への理解と参加促進を図る取組は、県民活動の裾野を広げ、市民活動団体の高齢化や後継者不足など、団体の人材面の課題を解決するためにも大変重要だと考えており、団体支援の取組としても位置付けています。 ・県ではこれまでも、市民活動団体の安定的、継続的な活動に向けて、各種取組を実施してきたところであり、次期計画においても、「施策の方向性2」に「市民活動団体等の基盤強化等の支援」を位置付け、引き続き、団体支援に取り組んでいくこととしています。 ・なお、計画の資料として団体の活動事例などを盛り込むなど、県民活動への理解を深めるための工夫について、検討してまいります。 	36
2	県民活動のあり方 (県民活動の定義)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための活動がある一方で、各人のやりがいや趣味の活動など、個人的な楽しみの活動が課題解決に繋がっている場合がある。 ・県民活動に参加したことがない方に参加してもらうためには、まず日常のコミュニティの活動や趣味の活動に参加し、様々な人たちと関わり合うことが重要で、その副次的効果として課題解決があるというストーリーの方が受け入れられやすい。 ・初めから課題ありきではなく、ベースは日常生活であり、その日常生活の中から課題が見えてきて、その緩やかなベースの上に県民活動が成り立っているという位置づけの方が的確だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(2) 県民活動への継続的な参加の促進」に、楽しみながら活動できる環境整備の重要性について記載しています。 ・第5章「施策の方向性」の「1 目指す千葉県の姿」において、県民活動は語学や庭仕事、楽器の演奏など、得意なことや好きなことを活かした活動もあるとして、その多様性について述べています。 ・また、都市ボランティアは「私は輝く 楽しむ、変わる、世界を変える」をスローガンとしており、個人の楽しみと社会貢献が一体となったボランティアのあり方を示す一つの良い例であることから、計画の資料として都市ボランティアの声(参加した動機や得たもの)を盛り込むことなど、県民活動の多様性に関する理解を深めるための工夫について、検討してまいります。 ・なお、県教育庁では、趣味やスポーツ・文化的活動などを含む生涯学習の推進に取り組んでいるところであり、いただいた意見については、関係部局とも共有し、施策を推進する上での参考とさせていただきます。 	30、32

	項目	意見の概要	対応の方向性	原案該当ページ
3	県民活動と各活動とのバランス	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのライフステージに応じて、子育てや介護などがあり、県民活動への関わり方が非常に厳しくなっている。ワーク・ライフ・バランスだけではなく、ライフの中のバランスということも大きな課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「Ⅱ 県民活動の促進に向けた課題」における「(1) 県民活動の裾野の拡大」に、それぞれのライフステージやライフスタイルに応じて、参加を促す環境づくりの重要性について記載しています。 また、第5章「施策の方向性」の「1 目指す千葉県の姿」では、誰もが自分らしい関わり方を見つけ、自分自身に合ったスタイルで参加することの重要性について記載しています。 いただいた意見につきましては、具体的な施策の推進に当たり、課題意識を持ちながら、取り組んでまいります。 	30、32
4	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 県政に関する世論調査では、ボランティア活動への参加について、自治会など従来の枠組みへの参加について聞いているが、関心はあるものの、従来の枠組みには参加したくないという層がかなりある。 データとして示すのが難しいことは承知しているが、そうした層をどう拾えるか、その人たちを意識した現状をどのように描けるのか、について考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 県政に関する世論調査では、ボランティア活動について、自治会や市民活動団体の活動のみならず、個人で行う活動全般を指すと注釈を付しています。 なお、従来の枠組みにとられない県民活動の活動状況についてより的確に把握する手法に関しては、いただいた意見を参考に、今後、検討してまいります。 	21
5	アンケート調査 (オリ・パラレガシー)	<ul style="list-style-type: none"> 「ボランティア活動に参加したことがある人の割合」について、目標を達成したとのことだが、東京オリンピック等でボランティアに対する意識が高まったものの、その後そうした機運が低下してのではないかとも言われている。この辺りの実績というのは今後も注視していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への関心や参加経験については、今後も調査し、注視してまいります。 また、東京2020大会を契機とした各種取組の成果がレガシーとして各地域に根付くよう、県としてももしっかり取り組んでまいります。 	—

	項目	意見の概要	対応の方向性	原案該当ページ
6	地域課題解決のイメージ図	<ul style="list-style-type: none"> ・一番基礎にあるのは日常生活で、そこには学びや労働、趣味など様々な活動があり、そのカオスの中で、必要に応じて、あるいは関心に応じて団体の活動が展開され、連携の動きが出てくるということを示すことができると良い。 ・社会実態として様々な活動がある中で、必要に応じて様々な連携や活動の形が作られていくのであって、それは必ずしも一つの方向に向かっていくということではない。 ・図に書くところという形になるのではないか。社会実態として、様々な動きがあるが、結果的にこういう図になる。 ・この図は6ページで挙げられている主体がどのように連携・協働するかという図なのであって、個人を強く打ち出すとかえって分かりづらくなるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該イメージ図については、それぞれの日常生活が基礎にあることを前提として、その中から浮かび上がってくる地域課題に対し、各主体がそれぞれの役割を果たしながら、連携・協働して課題の解決に向かっていくプロセスを描いたものです。 ・なお、共助の場で各主体が連携・協働して取り組みながら、そこで得られた知見や課題意識を各主体が持ち帰って団体の活動を広げ、さらに各主体の連携を深めていくプロセスや一つの課題の解決が新たな課題の発見につながり、様々な活動が絶え間なく広がっていくというイメージを、矢印を加えることによって表現しました。 ・個々の日常生活が基礎あり、必要に応じて、各主体が柔軟に連携・協働して課題解決に取り組むという県民活動のあり方については、具体的な施策の推進に当たり、常に念頭に置いて取り組んでまいります。 	7
7	中間支援団体の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・中間支援団体強化について、どう強化するのかについて、もう少し踏み込んだ記述が欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(3) 市民活動団体等の持続的な活動に向けた基盤強化」に、中間支援組織の支援のあり方について記載しています。 ・また、第5章「施策の方向性」の「施策の方向性2 市民活動団体等の基盤強化等の支援」の冒頭の説明文に、具体的な取組についての記載を加えました。 	30、36
8	自立した活動や連携への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題等について全てを行政が対応することは困難であることから、各団体等ができるだけ自立、連携するよう地道に支援していくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第5章「施策の方向性」の「施策の方向性2」に「市民活動団体等の基盤強化等の支援」を位置づけ、団体が自立して、安定的・継続的に活動できるよう各種取組を実施するとともに、「施策の方向性3」に「多様な主体による連携・協働の促進」を位置づけ、引き続き、連携の促進に向けて支援してまいります。 	36、38
9	計画の広報	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなに良い計画でも県民一人一人に知ってもらい、その意義を理解してもらわないと意味が無いため、広報やPRが重要である。それができていないから、盛り上がりや災害発生時のボランティアなど、一時的なもので終わってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画については、県ホームページに掲載するとともに、冊子を作成し、各関係機関に配布するほか、各種会議・セミナー等で説明を行うなど、周知広報に努めてまいります。 	—